

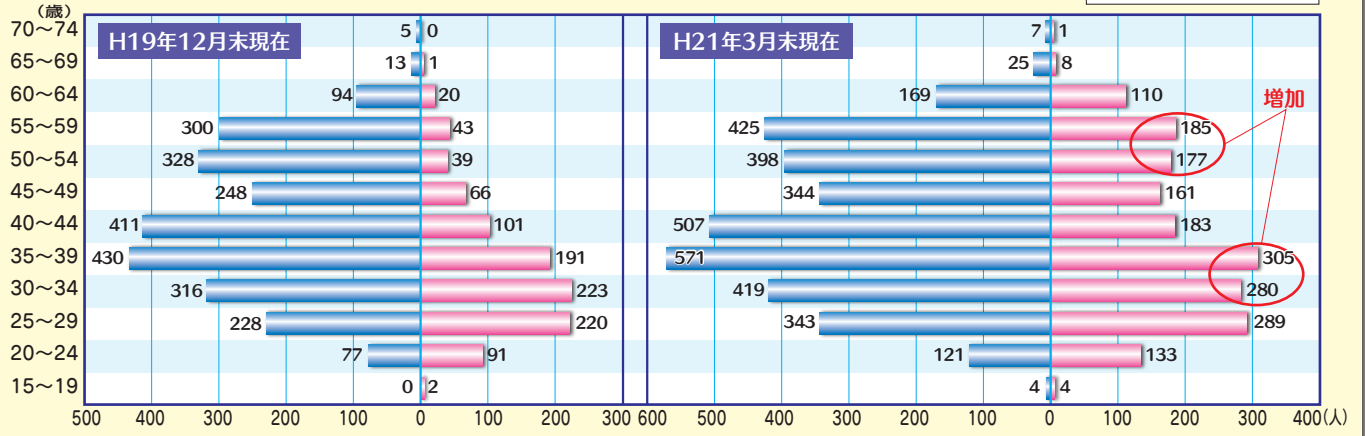
医療費分析

健保組合では昨年、平成19年、20年度の医療費について分析をし、2009年秋号では、その結果と当健保組合の特徴をご報告させて頂きました。特に高血圧性疾患が件数、医療費とも大きな割合を占めておりました。今回は、次に目立っている糖尿病についてご報告したいと思います。

被保険者構成

平成19年12月と平成21年3月の時点で被保険者数を比べると、1,722名増えています。年代別に見ますと特に30代、50代の女性の増加が著しいです。

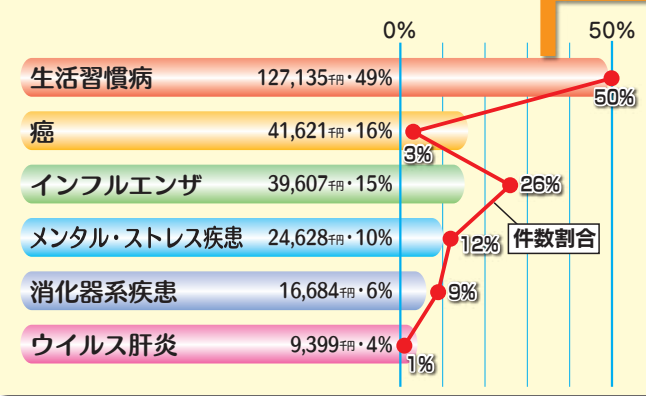
図1 被保険者年代別構成



予防可能な疾病群別の件数と金額の関係

被保険者の増加に伴い、給付・療養費は全体的に増加しています。なかでも予防可能な疾病群が大きな割合を占めています。細かい内訳を見ますと、生活習慣病が件数割合で50%、金額割合で49%となり最大です。続いて癌、インフルエンザとなっています。

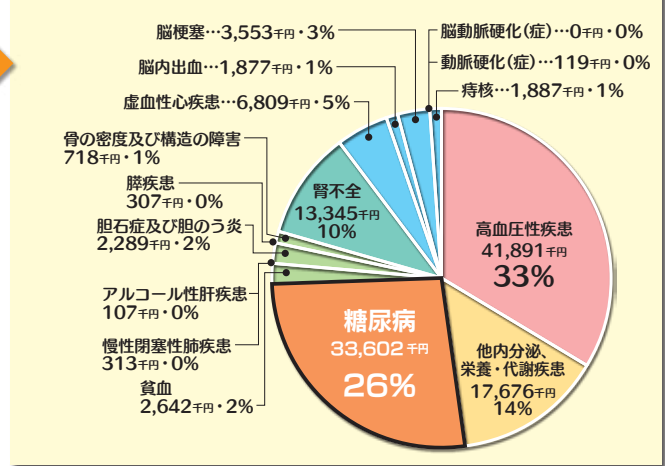
図2 予防可能な疾病群の点数割合



生活習慣病の内訳

糖尿病が件数で19%、金額で26%です。高血圧(件数47%・医療費33%)に比べ糖尿病は件数はあまり多くはありませんが医療費はかなりの割合を占めています。

図3 生活習慣病の医療費割合



糖尿病 年代別入院外来別医療費

年代別にみると、30代後半から入院も発生。50代後半に激増しています。

20代後半の人から要注意！

糖尿病は、初期にはほとんど自覚症状がなく、いったん発病したら一生治らないやっかいな病気です。特定健診で異常値が見つかる前に、定期的な健診や検査で自分の体かどのような状態なのか把握し、日常生活を見直しましょう。

図4 糖尿病年代別医療費(被保険者)

